

学校、保育所、公園における空間放射線量率の詳細測定について

本年8月26日、原子力災害対策本部から発表された「除染に関する緊急実施基本方針」によると、本市は「追加被ばく線量がおおむね1ミリシーベルト以下の地域」であると考えられることから、市町村単位での面的な除染をする必要はありません。しかしながら、側溝や雨樋など局所的に高線量を示す箇所が存在が考えられることから、今回、モデル的に選定した保育所、小学校、公園の各1か所で、独立行政法人放射線医学総合研究所（放医研）の協力を得て、放医研の開発したシステム及び機材を用いて、空間放射線量率の詳細調査を実施したのでお知らせします。

記

1. 測定条件

測定日：平成23年8月29日

天 候：晴れ

測定高：地上50cmとした。これは児童の身長を考慮した値である

2. 測定方法

測定器：放医研開発の実時間空間座標監視型空間線量率測定装置を用いた

（別添1は同装置の表示画面を示す）

検出器：2インチ型CsI(Tl)シンチレータ

校正法：JIS Z4511に基づく実用校正を実施し、基準測定器はPTW製電離箱、基準線源は¹³⁷Csを用いた

測定時間：5秒間隔の連続測定

測定形態：移動は自動車により指定場所測定は徒歩による（別添2は測定の状況を示す）

3. 測定場所

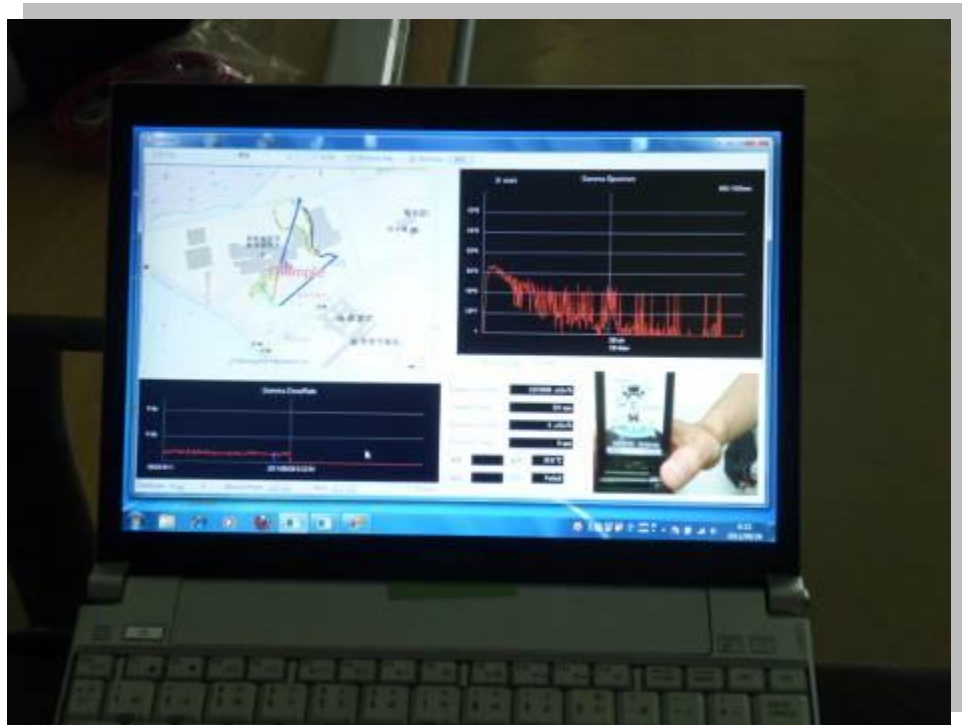
花見川第三保育所、花園小学校、幸町公園

4. 測定結果

全平均線量率は0.10 μ Sv/h、保育所平均は0.12 μ Sv/h、小学校平均は0.10 μ Sv/h、公園平均は0.08 μ Sv/hであった。又、最大値は小学校内雨どい直下で0.28 μ Sv/hであり、特に問題となるような場所は無かった。別添3にデータ詳細を示す。

5. 市の対応

今回の測定値は、6月の測定値（0.09～0.24 μ Sv/h）より低い状況であるが、放射性物質が集積しやすい場所については、日常の清掃活動の中で対応することを基本に、具体的対策を今後、関係部局と協議し対応する。



千葉市内空間γ線線量率分布

